

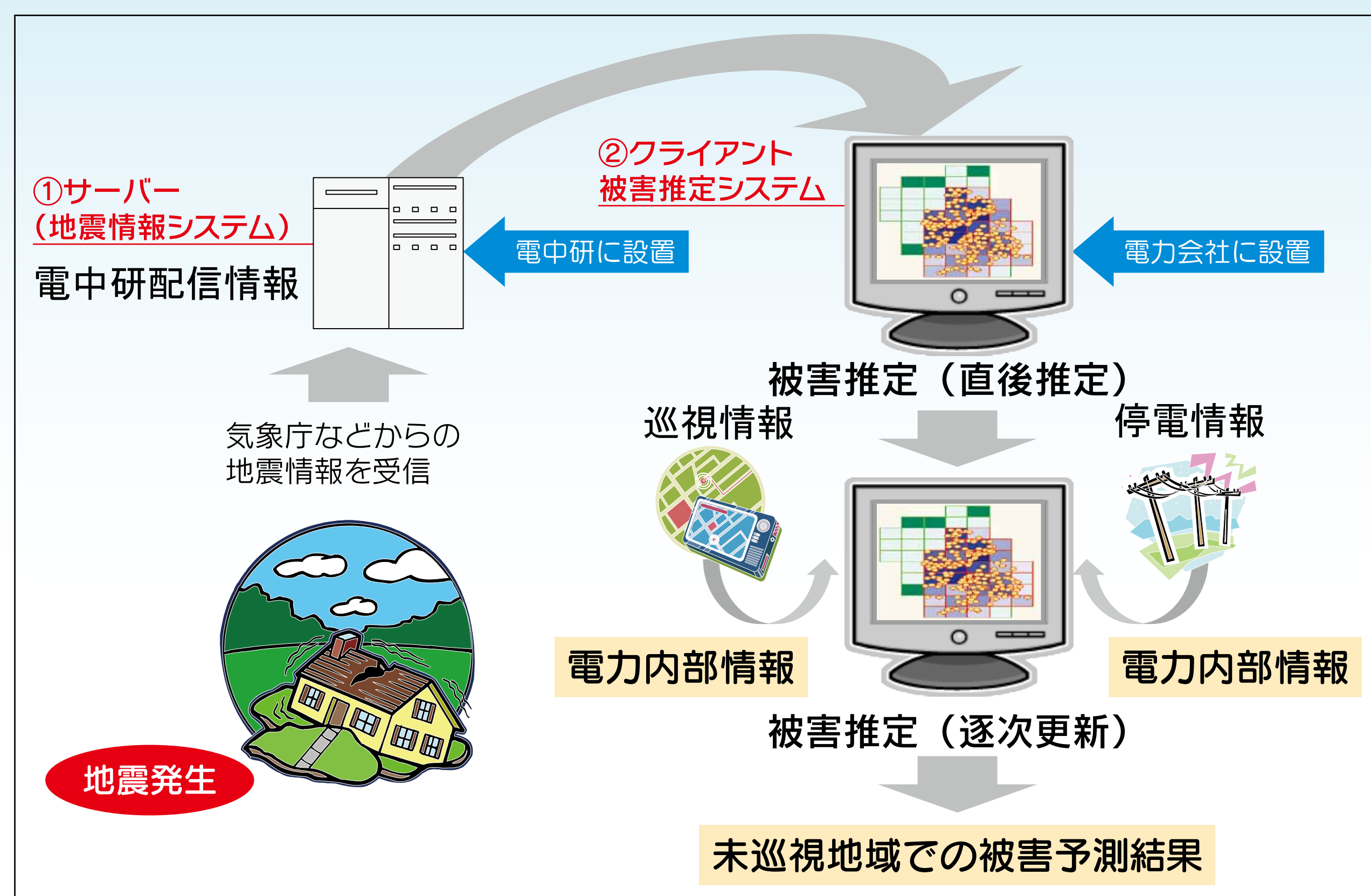
地震被害推定システム（RAMP-Er）

※ Risk Assessment and Management system for Power lifeline - Earthquake real time

地震発生直後の被害状況を推定・見える化で復旧活動に役立ちます

背景・目的

- 大規模地震が発生すると、広い範囲で多くの設備被害が発生する可能性がある。特に配電設備は面的に膨大な数の設備が施設されていることから、地震被害が発生した場合には、迅速かつ効率的に現場巡視や設備の復旧作業を行う必要があるため、それらを支援・実現する配電設備の被害推定手法を開発しました。



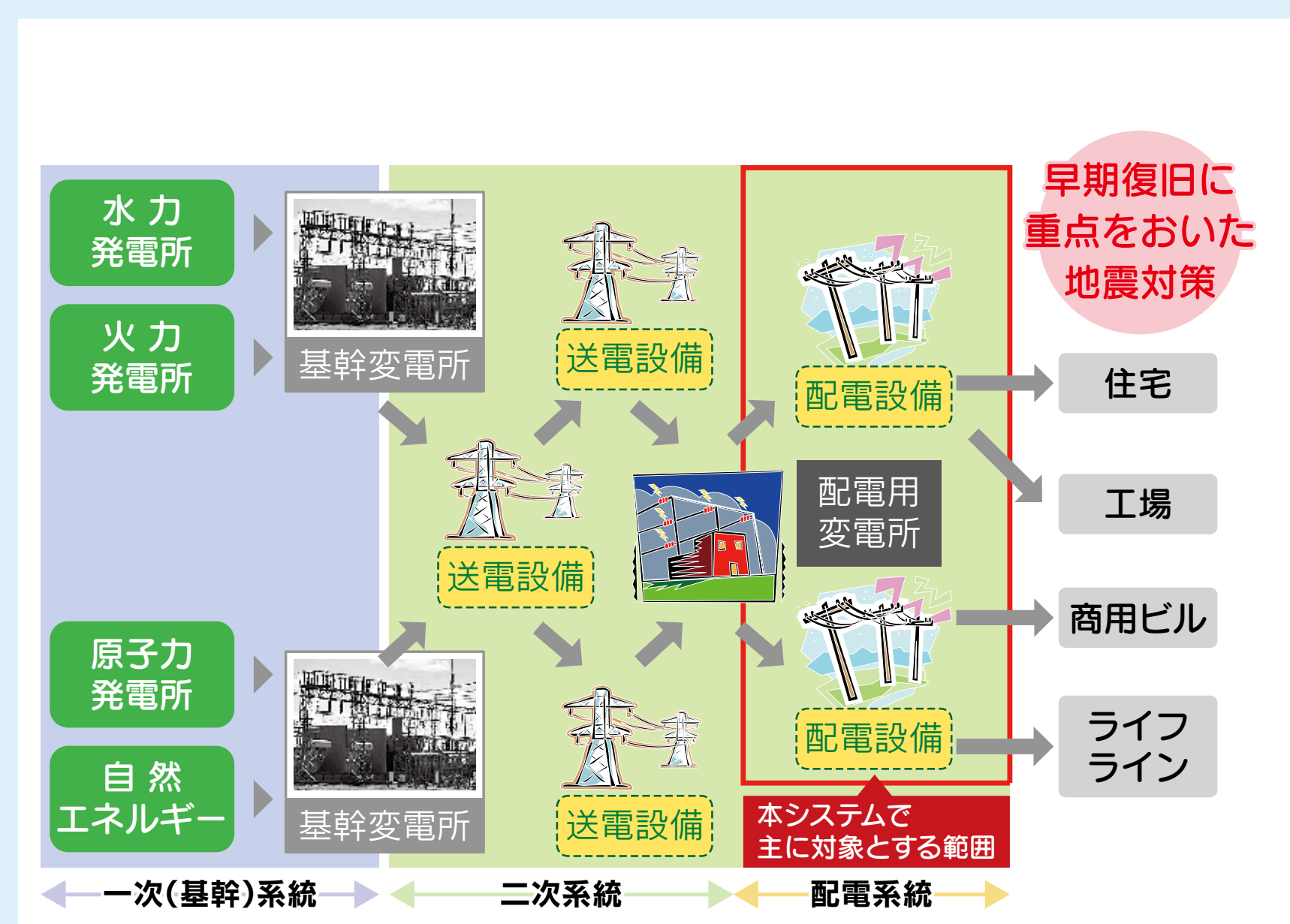
本システムを用いた災害復旧支援イメージ

特長

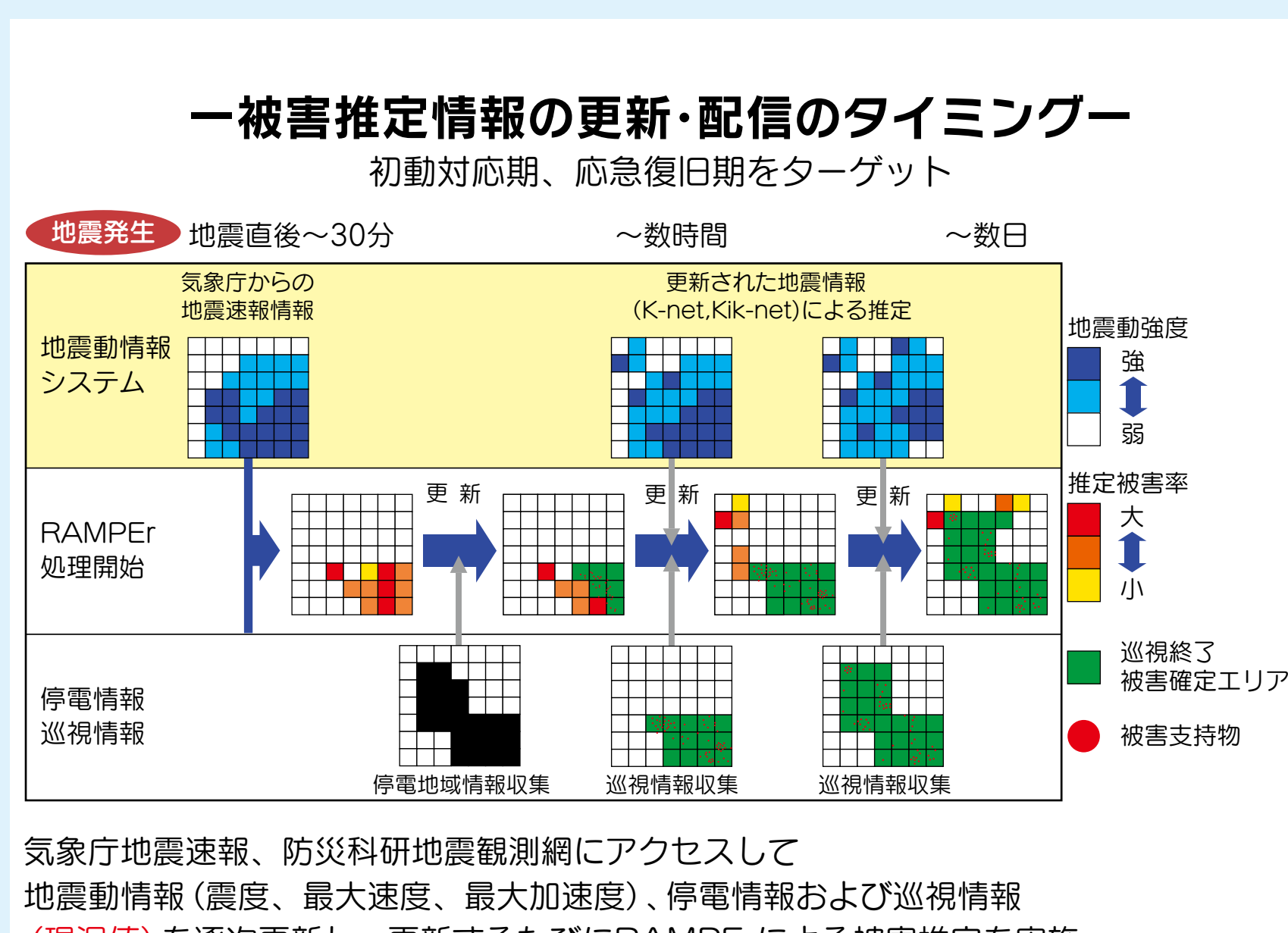
- 地震観測点情報から力学特性に基づく配電設備被害が推定可能
- 地震発生直後の被害推定結果で、優先的に巡視すべきエリアが把握可能
- 巡視情報や停電情報などを逐次更新し、推定精度向上を図る

用途

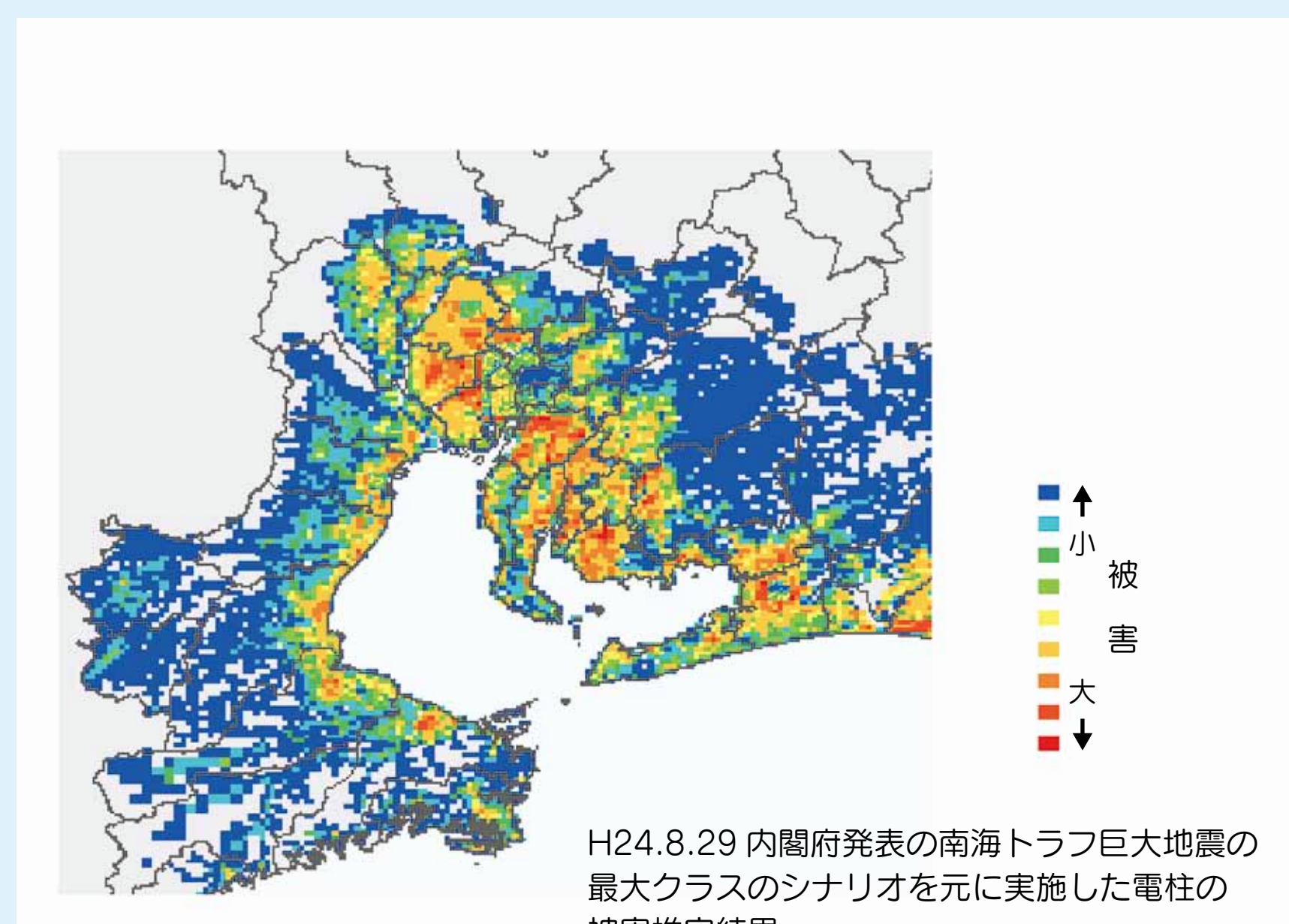
- 東日本大震災にて実用の実績あり
- 地震発生直後の被害規模推定に基づく、復旧要員の適切配置検討に活用
- 被害状況などの情報一元化が可能
- 事後における地震規模と設備被害との相関分析に活用



対象とする電力設備と対策の視点



被害推定フロー



被害推定結果

開発者のひとこと

大規模災害発生時でも、少しでも早く電気をお使いいただけるように、復旧活動を支援・効率化する方法について、電力中央研究所様の知見や技術力を提供いただきました。